



2026年2月16日

各位

会社名 チエル株式会社  
代表者名 代表取締役 川居 睦  
(証券コード 3933 東証スタンダード市場)  
問合せ先 取締役 片岡 久議  
(TEL. 03-6712-9721)

### 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、2026年2月16日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、現状分析と改善に向けた取り組みについて決議しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 1. 現状分析

##### (1) 資本コスト

当社の株主資本コストは、過去2年平均で概ね6.0%程度と認識しております。

これはCAPMを使った試算で、リスクフリーレートを2026年1月新発10年国債利回り2.245%、ベータを2026年2月以前2年間の配当込TOPIXに対する当社の株価の比較で0.638(修正 $\beta=2/3 \times \beta + 1 \times 1/3$ を使用)、エクイティリスクプレミアムを1972年~2023年の期間数値5.88%(SMBC日興証券試算)、として算出されます。

同様に、過去5年間のベータ0.743を用いると、株主資本コストは、過去5年平均で概ね6.6%程度となります。

##### (2) 資本収益性

当社のROEは、2025年3月期14.7%、2026年3月期予想14.9%となり、過去2年平均、過去5年平均の株主資本コストをいずれも大きく超えておりますので、これまでは株主の皆様からお預かりした資金を使って企業価値を高める成長が実現出来ております。

##### (3) 市場評価

決算期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
PBR (株価純資産倍率) (倍)	2.4	1.7	1.8
PER (株価収益率) (倍)	14.1	13.5	12.7

#### 2. 改善に向けた取り組み

今後の持続的な株価の向上のためには、2024年4月から2027年3月までの「第6次中期経営計画」の重点施策の一つとしている「株主還元の実施」もしっかりと進めつつ、①中長期的な企業価値向上の実現を通じたROEの継続的な上昇と、②株主資本コストの低下を実現したいと考えております。

①については、「第6次中期経営計画」でROE13%以上の継続を謳っておりますが、この期間中の「株主還元の実施」以外の重点施策として掲げた4項目「現場で求められる製品・サービスの企画・開発の継続」「グループとしての事業再定義と着実な成長の実現」「国内外各社との提携・M&A推進」「ESG

の強化」も、「株主還元の実施」と共に着実に進めつつ、収益性を高め、企業価値を向上させることが必要と認識しております。また、②については、IR強化による情報発信頻度を高めて投資家へ正確な情報開示を行う、事業リスクを見極めた投資活動を行う、市場の流動性を高める、などを通じてベータの安定化をめざし、株主資本コストの低下を目指したいと考えております。

以 上

【資本コスト算出に関するデータ】

2026年1月新発10年国債利回り 2.245%

エクイティリスクプレミアム 5.88% (1972年～2023年の期間数値 5.88%、SMBC日興証券試算)

未修正ベータ (過去2年-26年2月以前) 0.457

未修正ベータ (過去5年-26年2月以前) 0.614

修正ベータ (過去2年-26年2月以前) 0.638 (修正  $\beta = 2/3 \times 0.457 + 1 \times 1/3$ )

修正ベータ (過去5年-26年2月以前) 0.743 (修正  $\beta = 2/3 \times 0.614 + 1 \times 1/3$ )

資本コスト (過去2年平均)

$= 2.245\% + 0.638 \times 5.88\% = 5.996\%$

資本コスト (過去5年平均)

$= 2.245\% + 0.743 \times 5.88\% = 6.613\%$